

問一 次の文字を、形よく書きなさい。(漢字は一行目に楷書で、二行目は行書で)

無事秋冷御歳暮
ゆうやけのそら

問二 次の文章を、漢字は楷書で、調和よく書きなさい。出典も記入すること。

失敗は成功の母である。落胆と失敗は、人を確実に成功に向かわせる二つの試金石である。この二つを自発的に研究し、何か今後に役立てられることを掴み取ることができれば、これほどプラスになるものはない。

(デール・カーネギーの文章より)

問三 次の文章を、漢字は楷書で、調和よく書きなさい。出典も記入すること。

漢字は敬意文字であるところから、それを組み合わせますと新語がいくらでもできます。もつともこれらの語は、耳で聞いたのではさっぱりわかりませんが、意味の面からはすぐ理解できるという長所があります。(金田一春彦の文章より)

問四 次の蘭亭序を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書^{*}しなさい。

^{*}臨書…古典の字形や線などの特徴を捉えて書くこと



(是日也天朗氣清)

問五 次の部首にはそれを使った漢字を書き、漢字には部首名を書きなさい。

禾 ↓ □	雨 ↓ □	女 ↓ □	心 ↓ □
独 ↓ □	陽 ↓ □	発 ↓ □	頭 ↓ □

問一 次の語句を連綿しなさい。変体仮名を使用してもよい。

あき する ました

よろしく おります

問二 次の文章を、漢字は行書で、調和よく書きなさい。出典も記入すること。

旅に出ることは日常の生活環境を脱けることであり、平生の習慣的な関係から逃れることである。旅のうれしさは、かように解放されることのうれしさである。

(三木清著「旅について」より)

問三 次の葉書文を、紙面構成を考えて楷書、または行書で調和よく書きなさい。

新春のおよろこびを申し上げます
今年もよろしくお願ひ致します

平成三十年 元旦

問四 次の風信帖を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。

※臨書：古典の字形や線などの特徴を捉えて書くこと



(風信雲書自天)

問五 次の平仮名、片仮名の字源(平仮名、片仮名のできるもとの漢字)を、楷書で書きなさい。

ゆ き ふ か し
ハ ル ノ ウ ミ

初段

硬筆検定試験問題 (60分) (第95回 平成29・11)

※各問の出典の記入は自由とする。

問一 次の文字を、楷書・行書の二体で書きなさい。

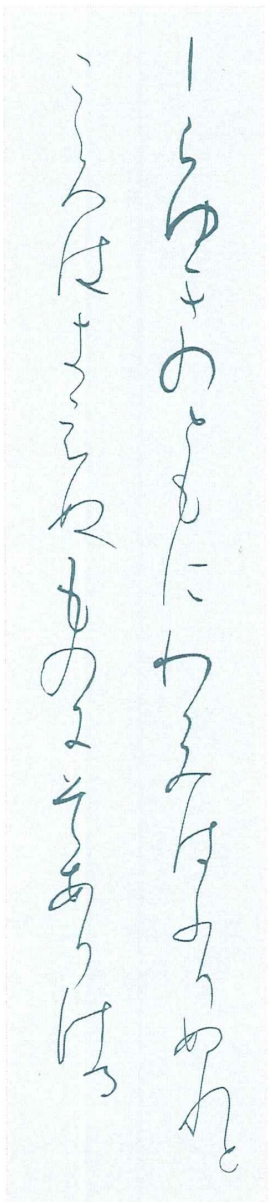
秋色 静 中生

問二 次の乙瑛碑を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。



(候四時來祠)

問三 次の高野切第三種を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。



(しらゆきの ともにわがみは ^可 ぐらふはきえぬもの ^支 にぞありける)

問四 次の文章を、漢字は行書、または草書で、調和よく書きなさい。

はるばると海を越えて、この島に流れ着いた時の私の憂愁を思いたまえ。夜なのか昼なのか、島は深い霧に包まれて眠っていた。私は目をしばたいて、島の全貌を見すかそうと努めたのである。裸の大きい岩が急な勾配を作っていくつもいくつも積み重なり、ところどころに洞窟の黒い口の開いているのがおぼろに見えた。

(太宰治「猿が島」より)

問五 次の 内の掲示文を問五解答用紙に、位置・文字の大小等を考えて、フェルトペンか、筆ペンで書きなさい。(縦・横自由、数字は算用数字・漢数字どちらでもよい)

- 期日 平成二十九年十一月二十六日(日)
- 会場 宮崎県立美術館
- 第八回 宮崎県高校書道展
- 主催 宮崎県高等学校文化連盟
- 後援 宮崎県教育委員会

※各問の出典の記入は自由とする。

問一 次の文字を、楷書・行書・草書・隷書の四体で書きなさい。

山 月 夜 窓 寒

問二 次の十七帖を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。

勢、引、る、ま、あ、と

(郝司馬未去)

問三 次の作品について各々の時代名と筆者名を漢字で書きなさい。

- (1) 蘭 亭 序
- (2) 孔子廟堂碑
- (3) 風 信 帖

問四 次の文章を、漢字は行書、または草書で、調和よく書きなさい。

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。野山に交じりて竹を取りつつ、よろづのことに使ひけり。名をば、讃岐の造となむいひける。その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。あやしがりて寄りて見るに、筒の中光りたり。それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしうて居たり。

(「竹取物語」より)

問五 次の短歌を、調和よく散らし書きしなさい。漢字は仮名に変えてもよい。

(連綿や変体仮名をいくつか使いました)

夕やみのほのけき庭にうきいでてかすかにゆるる月見草の花 (相馬 御風)

問六 次の詩を、問六解答用紙に情趣を考慮しながら筆ペンで調和よく書きなさい。

烏なせ啼くの 烏は山に 可愛七つの 子があるからよ

可愛可愛と 烏は啼くの 可愛可愛と 啼くんだよ

山の古巢に いて見て御覧 丸い眼をした いい子だよ

(野口 雨情「七つの子」)